

＜別紙・パブリックコメント意見への対応方針＞

※太字：基本方針案に反映した意見。下線：具体的に修正した箇所。

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
一	全体	①基本方針の内容を踏まえたプラスイメージの発信をお願いしたい。	反映 【はじめに】	「…今後は本方針を広く周知するとともに、関係者等の意見を聞きながら…」と修正しました。
		②各学校の具体的なことが書いてない。抽象的すぎて、これからどうなるのか分からない。	検討課題	個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
		③これまでの高校改革の結果がどうであったかという振り返りが大切である。	反映済	成果や課題については、常時評価・検証しており、その結果も踏まえ、簡潔に記載しています。
		④子供の貧困が叫ばれてから久しいが、生徒の学習権保障を第一に考えた方針として欲しい。	反映済	小規模校の教育の質の向上等を検討し、その存続に最大限努力するなど、生徒の学習権保障についても考慮しています。
		⑤高校生の年代から教えて、50年後を見据えていただきたい。	検討課題	本方針は、37年度までの基本方針ですが、個別の施策を検討する際に留意していきます。
I	1 鳥取県の現状	①高等学校で身に付けるべき学力は大学進学率で測定できるものではない。どんなデータを学力の根拠にしているのかが不明。	反映済 【P2】	大学進学率のみで学力を測定する記述とはしていません。
	2 新たな学びに向けた取組	①不登校などの事情で学び直しの希望のある方々に学びやすい環境が近くにあればいいと感じている。	反映済 【P3】	学び直しへの取組も含め、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得・定着させることにも取り組むこととしています。
		②普遍的な学習内容を基本として、教育内容や教育課程を提供していくことが必要。高校では社会に主体的に参加していく市民としての基本的なことを学習すべき。	反映済 【P3】	基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得・定着させることはもちろん、社会に出た後も学ぶことの意義を十分に理解して主体的に学び続ける姿勢や思考力・判断力・表現力の育成を図ることとしています。
		③「生徒自らがデザインした学習」という名の自己責任論に基づく学力観を改め、教育行政が自らの責任として将来の状況変化に対応できる基礎・基本の力とは何かをはっきりと示し、その力を子どもたちに保障していくことが必要ではないか。	反映済 【P4】	変化の激しい社会の中で、生徒一人一人が自らの人生を切り拓き、創造性を身につけて、他者と助け合いながら持続可能な社会を形成していく力の基礎として、まずは「生きる力」を「知」の側面からとらえた「確かな学力」を育成していくこととしています。

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
I	2 新たな学びへの取組	④先鋭化・ガラパゴス化することなく、フレキシブルな人材育成こそが求められている。	反映済【P4】	未知の問題に対して答えを生み出す「思考力」や、人と協調して現実の問題を解決する「実践力」をさらに高めるべく、学習方法・指導方法を改革していくこととしています。
		⑤「価値あるものとは何か」という思索もなく、表面的な知識や方法論を追い求めてはいないか。	反映済【P4】	人との関わりの中で課題を解決し、社会にとって価値のある解を創造・提案し、社会自体をよりよい方向へと変化させていくことができる力を持った人材を育成していくこととしており、こうした力を育むための手段として、主体的・協働的に学ぶ学習やICTの活用を推進していくこととしています。
		⑥グローバル社会で活躍できる人材と鳥取県を内外から支える人材という二つの矛盾する資質を育成するという項目の立て方に疑問を持つ。	反映できない【P5】	地域の中核となる人材を養成するためには、地球規模の視野と地域に根ざした視点を持ち、様々な問題を捉えていく力が重要であると考えます。 また、鳥取県民としての誇り等を醸成し、国外、県外からでも郷土のために何らかの行動を起こせる人材を育成していくことも重要であると考えます。
	3 本県の地域や産業を支える人材の育成	①中学校前の進路指導の充実でミスマッチを防ぐ工夫をすることが必要。	反映済【P9】	高等学校と中学校を接続するキャリア教育の充実により、自己の適性を理解して主体的に進路を選択する態度を育成していくこととしています。
		②生徒・先生に対し、多くの優良な県内企業を知る機会を設け、県内で働くことの職業観を養わせることも大切。	反映済【P9】	地域の産業や文化についての学習や、地域の課題を題材とした学習等を積極的に取り入れるとともに、教員自身が地元企業を知る取組を推進することとしています。
		③県内外の各分野で活躍中又は活躍してきた人材から直接指導を受けることほど青少年のモチベーションを喚起することはない。	反映済【P9】	-
④鳥取県を愛し、誇りに思う意識を持った「鳥取県を内外から支える人材の育成」については、大いに賛同する。		反映済【P9】	-	
⑤「果敢にチャレンジする」という文言も、抽象的であってほとんど無意味ではないか。今の高校生も十分果敢にチャレンジしていると思う。		反映できない【P9】	「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」との予測もあり、これまで以上に新しいことにチャレンジする人材の育成が必要と考えています。	

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
I	3 本県の地域や産業を支える人材の育成	⑥多くの者は鳥取県での就職先が極めて限られていて、条件的にもよくないことから、やむなく卒業後に県外で就職する道を選んでいるとしか思えない。郷土愛教育で人材が確保できると誤解を招くのではないか。	反映【P9】	「近年、本県高等学校卒業後に就職した者の県内就職率は約8割と比較的高い傾向にあるが、進学者については、 <u>県外大学等への進学を機に人材が流出している実態がある。このことは、大学卒業後に専門性を生かして働ける場の確保など県の雇用施策とも関連した課題であるが、今後、本県の活力を維持していくには…</u> 」と修正しました。
II	2 学校の特色や魅力づくり	①「普通科系」と「専門科系」を併設した学校を設置し、安易な進路変更を可能にすると、卒業後も安易に仕事を変えようとする子どもを増やすのではないかと懸念している。	検討課題	答申の内容であり、今回の基本方針へは記載していないが、今後も継続して検討を行っていきます。
		②「飛び入学制度」は、H26.2中教審答申を踏まえて記述すべき。	反映【P13】	「（*12）…飛び入学の活用が促進されない一因ともなっている。こうした課題の解決に向け、平成26年12月中央教育審議会答申においては、「 <u>大学での一定の単位の修得状況を基に、文部科学大臣が高等学校卒業と同等以上の学力を有することを認定する制度の創設</u> 」が提案されている。」と修正しました。
		③専門性が求められる新学科を設置するのであれば、それに対応した教員の育成も必要。	検討課題【P13】	専門教員の育成も含め、学校長の裁量による予算（学校裁量予算制度）を活用するなど各学校の課題の解決や特色・魅力づくりを図っていくこととしています。
		④高校の資源（施設・教員等）を小中学生や地域住民が活用できるようにすべき【2件】	反映済【P13】	地域と学校が相互の資源等を最大限に活用する方法を模索していくこととしています
		⑤地域の持つ人脈を生かし、高校の特色を生みだせないか。	反映済【P13、P23】	地域との連携等も学校の特色や魅力として位置付け、その一層の活用と充実を図ることとしている。また、教員とは異なる専門性や経験を有する人材の積極的な活用を進めることとしています
		⑥小規模校に限らず、学校が特色を持ちそれを磨いていく必要がある【2件】	反映済【P13】	各学校の特色や魅力を明確にし、その充実を図っていくこととしている。また、小規模校に限らず各学校が持つ強みをあらためて再考し、これを学校の特色や魅力として位置付け、一層の活用と充実を図っていくこととしています。
		⑦県外募集を積極的に推進すべき【4件】	反映済【P13】	学校の特色に応じて、県外からも目標を持った生徒を受け入れる取組を推進していくこととしています。

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
Ⅱ	2 学校の特色や魅力づくり	⑧生徒数を大きく増やすには、部活動だけでなく教育の中身で魅力を出していくことも必要。	反映済【P13】	授業や教員の専門性、部活動や学校行事、学校の施設・設備などもその学校の特色となり得るものであり、各学校が持つ強みをあらためて再考し、これを学校の特色や魅力として位置付け、一層の活用と充実を図っていくこととしています
		⑨目標を持った人材を国外から募集することを検討しては。	検討課題	今後進める学校の特色や魅力に応じて、国外からの生徒の受入れについても検討していきます。
		⑩書道文化を愛好し和紙の伝統を受け継ぐ鳥取市に、書道専攻の高等学校を設置し、書道文化を国内外に発信し、和紙の伝統を受け継ぐ人材を育成して欲しい。	検討課題	個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています
		⑪どんな目的意識をもって県外から進学してくることを想定しているのか。わざわざ項目としてあげるものではないと思う。	反映できない	平成28年度入学者選抜（推薦入試）から、県外中学校の生徒の出願を可能としたところであり、今後も各学校の特色や魅力を明確化した上で、その一層の充実を図り、こうした取組を推進していくこととしています。
		⑫鳥取中央育英高校の地域探究を更にバージョンアップし、より魅力のある高校とすべき。	検討課題	個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
3	各課程・学科の在り方	①地元への就職率が高い専門学科を充実させるべき【2件】	反映済【P15】	産業界等との連携を強化し、生徒に身につけさせたい力を共有して産業界のニーズに応じた人材を育成などに取り組んでいくこととしている。 また、地域から小学科がなくなることに十分留意した上で、学級減を検討していくこととしています。
		②鳥取商業高校に普通科か総合学科をつくってはどうか。	検討課題	個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
		③郡部でも普通、商業、工業、農業の勉強ができ、たくさんの選択科目がある学校で、少人数で、地域の子供も達が誰でも学べ、障がいがあっても地域で学べる生活できる学校が実現できないか。	検討課題	個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
		④学校教育は教育委員会まかせではなく、知事部局などとの協働で「人材育成」をはかっていたきたい。	反映済【P15】	学校と産業界、行政機関等との連携を強化し、生徒に身につけさせたい力を共有して産業界のニーズに応じた人材を育成していくこととしています。

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
Ⅱ	3 各課程・学科の在り方	⑤鳥工、湖陵、倉総、米工、境総合の5校は堅持し、製造業の技術・技能要員を確保すべき。	検討課題	個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
		⑥定時制・通信制課程における過度なICT機器の導入は、学びを孤立化させる懸念がある。多様な学習者が集う定時制・通信制でこそ、アクティブ・ラーニングが追求されるべき。	反映済【P16、P5】	課題解決に向け、体験型学習の充実を図ることとしており、ICT機器の活用は、基礎・基本の定着等に向けた有効な学習モデルの構築に活用することを想定しています。 また、全日制・定時制・通信制を問わず、主体的・協働的な学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業への転換を目指して積極的な授業改革を推進していくこととしています。
		⑦現在の定時制・通信制に「支援の必要な生徒」が在籍しているという視点が欠けているように思う。	反映済【P7】	定時制課程・通信制課程、そして全日制課程も含めた県立高校全体で推進すべき取組として、P7に記載しています。
		⑧全く異なる課程である定時制課程と通信制課程が一括りにされている。	反映できない【P16】	本県では定時制課程と通信制課程を合わせ持つ独立校が2校を設置していることに鑑み、このような整理としています。
		⑨通信制課程は柔軟な教育課程とは言えないと思う。	反映できない【P16】	特に添削にはインターネット等の活用が、また面接指導等においてもメディア学習が可能となっているなど、柔軟な教育課程の編成が可能となっています。
		⑩定時制・通信制課程を将来的には廃止することを匂わせているのか。	検討課題	現時点で定時制・通信制課程の廃止は検討していません。
	4 標準的な学校の規模と配置	①安易な学級減や統廃合には強く反対【11件】	反映済【P18～P20】	各学校の規模は、標準的な学校規模をもとに、将来見込まれる各学校への入学者数、地域の産業や人口の状況等を考慮し、総合的に勘案しながら決定していくこととしています。 また、生徒数の減に対しては、原則として学級減で対応することとしており、特色ある取組を推進している小規模校については、遠隔授業の導入など教育の質の向上等を検討し、その存続に最大限努力することとしています。

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
Ⅱ	4 標準的な学校の規模と配置	②学級減ではなく、統廃合が必要と考える【2件】	反映済【P19】	大規模な教育改革を行った平成10年度から平成16年度の期間と比べて生徒の減少数は小幅となっていること、人口減少社会の中で少子化対策や雇用の創出などに取り組んでいる本県の状況を踏まえ、生徒数の減少には原則として学級減で対応することとしています。県全体の学科の配置状況等を考慮しながら、複数校を対象とした再編等による教育の質の向上についても検討することとしています。
		③「原則、学級減で対応する」という方向性に共感している。	反映済【P19】	-
		④生徒数の減少には学級定員減で対応すべき【32件】	反映済【P20】	学級定員減も選択肢の一つとし、教育の質の向上についても検討していくこととしています。
		⑤原則「学級減で対応」することとしている一方、「複数校を対象とした再編」や「学級定員減」、「小規模校の分校化や再編等」といった方策についても言及するなど生徒減への対応が曖昧である。	検討課題【P19、P20】	「原則、学級減で対応する」としていますが、変化の激しい社会の中、様々なケースを想定しておくことが必要と考えています。
		⑥全ての県立学校が受験可能であることから、地区ごとの倍率に大きな開きが生じるとともに、通学への保護者負担も大きくなっている。当面は普通科高校について従来の中学区に戻すことから検討を始め、学区の見直し（縮小）を進めていく必要がある【2件】	反映できない	平成19年度から全日制課程普通学科の通学区域を県全域とする見直しを行ったところであり、現時点でこれを見直すことは検討していません。
		⑦2学級になってから特色化に取り組むのは遅い。3学級の段階から、特色化に取り組むべき。	反映済【P20】	3学級以下の小規模校については、地域と連携した人材育成など小規模校ならではの利点を生かした特色ある取組を推進させ、これを支援していくこととしています。
		⑧地域連携の状況を学級減の判断等に用いるのは反対である。	反映済【P20、P13】	「地域と連携した人材育成」は特色ある取組の一例としてお示ししたものであり、地域連携に限らず、授業や教員の専門性、部活動や学校行事、学校の施設・設備などもその学校の特色となり得るものと考えています。

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
II	4 標準的な学校の規模と配置	⑨入学者数で学校を評価し、生徒・保護者のニーズを学校存続の指標とすべきではない【4件】	反映済【P20】	答申に基づき、入学者数等に基づく小規模校に関する基準を作成し、在り方を検討することとしていますが、特色ある取組を推進している小規模校については、遠隔授業の導入など教育の質の向上等を検討し、その存続に最大限努力することとしています。
		⑩小規模校の教員確保が課題と考える。	反映済【P20、P23】	特色ある取組を推進している小規模校については、遠隔授業の導入など教育の質の向上等を検討するとともに、教員とは異なる専門性や経験を有する人材の積極的な活用を進め、教員が授業を中心とする教育活動に一層専念できる体制を整備することとしています。
		⑪地域性を考慮して、市部の大規模校の学級減を行うべき【2件】	反映済【P21、P22】	各学校の学級数については、生徒や保護者等のニーズ、中学校卒業見込者数、当該校への入学者数及び地域の産業の状況等を総合的に勘案して決定することとしています。
		⑫小規模化が特に顕著な中部地区においては、学級減ではなく再編を断行すべき【7件】	検討課題【P21】	「中部地区については、他地区よりも普通学科の定員比率が高いこと、また各学校の規模が比較的小規模であることに鑑み、普通学科高校の教育効果をより一層高めるための方策を検討することとしており、個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
		⑬東部で6学級、中・西部各1学級減が望ましい。	検討課題【P21、P22】	個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
		⑭民業圧迫にならぬよう、東部地区普通科系高校の学級減か既存高校の廃校を行うべき。	検討課題【P22】	毎年度開催している私立学校関係者との意見交換の場などを活用し、今後も協議していくこととしており、個別の学校の在り方については、今後検討していくこととしています。
		⑮学級減等については私立学校とも意見交換を行っていくべき【2件】	反映済【P22】	毎年度開催している意見交換の場などを活用し、今後も協議していくこととしています。

章	項目	意見概要	対応方針（案）	
Ⅱ	5 魅力と活力ある学校づくりを推進するための体制整備	①「チーム学校」のモデル校をつくって研究してはどうか。	検討課題【P23】	ご意見のあったモデル校の指定も含め、今後の推進方針を検討していくこととしています。
		②教員の異動の活発化や中高間の教員異動をすすめるべき。	検討課題【P23】	チーム学校の推進と併せて検討していきます。
		③中学生から「小規模校では部活動が限られている」という声が聞かれる。部活動も学校の魅力の1つである。	検討課題【P23】	文部科学省においても、部活動全体の指導・助言や各部活動の指導、顧問、単独での引率等を行うことを職務とする「部活動支援員（仮称）」を法令上位置付けることを検討しているところであり、外部指導者の活用などと併せて部活動のさらなる充実を検討していきます。
		④従来のクラス単位での集団的指導で対応できない事例が増えてきている。十分な教育的効果や様々な成果を求めるのであれば、先生の数を増やすことは絶対的な前提条件である。	反映済【P23】	教員とは異なる専門性や経験を有する人材の積極的な活用を進め、教職員や様々な専門スタッフが適切な役割分担を行うなどチームとしての学校の力を向上させ、教員が授業を中心とする教育活動に一層専念できる環境を整備することとしています。
		⑤学校図書館はこれらの活動を支える有効な場であり、「チームとしての学校」の一員として重視していただきたいと考える。	検討課題	チーム学校の推進と併せて検討していきます。
その他【3件】	①厳しい家庭環境で生活している子ども達も大勢いる。教育を受ける権利を保障できるよう、給付型奨学金の制度の拡充を求めたい。	検討課題	本方針を踏まえて個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。	
	②鳥取県が活力を取り戻すには人口増が必須であり、そのためには若者が働ける受皿作りが最重要である。県立高校等にカリキュラムの工夫などで努力を求めるのは筋が違う。	検討課題	本方針を踏まえて個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。	
	③学生限定のSNSがあれば、いじめやトラブルの早期対応に有効ではないか。	検討課題	本方針を踏まえて個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。	